

第5回

伊丹市学校給食 献立コンクールを実施

市教育委員会は昨年度に引き続き、子どもの学校給食に対する意識を高める取り組みとして、市内小・中学生を対象に「学校給食献立コンクール」を実施しました。

栄養バランスを考え、地元産食材を盛り込むなど、創意工夫した給食献立が多数応募されました。

応募総数は1848点で、審査の結果、小学校の部16作品、中学校の部16作品の計32作品が入賞作品に選ばれました。



稲野小学校 馬場先 巧翔さん



小学校

●まめまめカレー



荒牧中学校 本井 優奈さん



中学校

- ごはん
- チキンのトマト煮込み
- ブロッコリーとベーコンのにんにく炒め
- 玉ねぎと生姜のスープ

学びに向かう力(非認知能力)で 幼小の接続を



伊丹市教育委員 瀧川光治

伊丹の教育の特色の一つは、幼児教育の重要性、とくに非認知能力の育成を大切にしていることにあります。新たな学習指導要領に示された資質・能力の三つ柱の中の一つ「学びに向かう力・人間性等」は、非認知能力のことです。非認知能力には、自信や自己肯定感、物事に対する興味・関心や好奇心・探究心、やり抜く力、人と関わる力などが含まれています。幼児期の子どもは色々な遊びや活動にトキメキを感じながら、楽しんで夢中になっていく中で、「こうやったらかうなるんだ!」「こうやったらうまくいくけど、違うやり方ならうまくいかない!」という気づきが生まれます。

そして、「じゃ、次はこうやってみたらどうなるかな?」と新たなヒラメキを試して、工夫し始めます。その過程で新たな気づきや発見が生まれてきます。この体験の中の気づきや発見が「学び」生きた知識になります。

このように幼児期の子どもは「学びに向かう力」(非認知能力)を土台に、トキメキ、ヒラメキ、気づき・発見が絡み合いながら育っていき、その中で感じる楽しさや喜び、満足感や達成感によって、その遊びや活動を好きになっていきます。その結果、自信や自己肯定感が育まれていくのです。

そのため、「生きた知識」を子ども自身が獲得できるように、大人は子どもが夢中になって楽しんで好きになっていくようにサポートすることが大切です。そして、それを「おもしろいなあ」「すごいなあ」という温かなまなざしで受け止め、共感することによって、より自信・自己肯定感が育まれていきます。

そのため、伊丹市幼児教育ビジョンで「愛情・自然・ことば」として「愛情」を最初に入れているわけです。幼児期の育ちを小学校にうまくバトンをつなぐためには、①伊丹市内の就学前のすべての施設で共通理解を図り、②小学校低学年の教育への接続の仕組みを作ることが必要です。このような取り組みに今後も尽力していきたいと思えます。

人権教育シリーズ

愉しみなお出かけ

市人権教育指導員 緑丘小学校長 和久学



一人暮らしの母が、車いすでの生活となり、外出する際の押し役は、息子である私がすることになりました。街に出かけたとき、歩く時の視線を、普段とは変える必要があることに気づいたのです。それは足元。段差やこぼれを避けるために、少し先を見て押さなければなりません。

また、道の勾配も厄介です。特に、上りよりも下り坂の方に注意が必要です。車いすのコントロールを最優先に、目配りをしながら進むという目線でした。

嬉しく思ったこともあり、すれ違う人出会う人が、みなさん優しいのです。車いすが通り過ぎるのを待ってくださったり、ドアを開けていただいたりと、不自由がないように気を遣ってくださいます。トイレなども、「お先にどうぞ」と譲っていただきました。駅では、駅員さんが「何かお手伝いしましょうか?」と必ず声をかけてくださいます。

こんな優しい世の中だったのかと、み

なさんの優しさに心が熱くなりました。街中で優しさに出会え、お出かけが愉しみになるなんて、素敵なことではないですか。

学校現場においては、障がいのある人と健常者が一緒に学ぶ、「インクルーシブ教育」が導入されて久しくなりました。多様な子どもたちがいる学校生活で身に付けた優しさは、大人になってもしっかりと根付いていきます。

また、中教審の答申に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という新たなキーワードが示されました。これは、何も勉強のことだけでなく、社会生活の中で、誰もが気持ち良く生きていくために役立つ学びと置き換えてもいいのではないかと考えています。

私たちみんなで、最適な世の中にしていくためにはありませんか。みなさんの優しさの中で暮らしてきた母は、89才で静かに旅立ちました。

「早寝・早起き・朝ごはん」 実践していますか?

「早寝・早起き・朝ごはん」ということばを一度は耳にしたことがある方も多いと思います。子ども達の健やかな心身の成長には、十分な休養・睡眠と調和のとれた食事などの基本的な生活習慣がとても大切です。

しかし、令和3年度全国学力・学習状況調査で、新型コロナウイルス感染拡大による学校の臨時休校期間中「規則正しい生活を送っていましたか」という質問に肯定的に回答した全国の児童生徒の割合は、小学生63.0%、中学生で48.4%という結果が出ました。

伊丹市では、図書ボランティアの協力による「早寝・早起き・朝ごはん」に関する紙芝居等の読み聞かせや、家庭教育推進員による保護者等へ「早寝・早起き・朝ごはん」の効用についての講話を行っています。子どもの基本的な生活習慣づくりには、家庭でのコミュニケーションも大変重要です。将来を担う子ども達のために、大人も子どもと一緒に「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする基本的な生活習慣について考え、無理せずできることから実践してみませんか。

第3日曜日は 「家庭の日」 だんらんホリデーです!

だんらんホリデーは、子どもと一緒に楽しむことや、家族団らんの機会を進んでつくり、心触れ合う明るい家庭づくりに努めるなど、いつでもみんなが家庭や家族について改めて考えることを目的としています。第3日曜日には、市内各所の多数の店舗等に協賛いただいておりますので、是非ご利用ください。詳しくは、伊丹市ホームページ・だんらんホリデーのチラシ(毎月発行)をご覧ください。



家庭教育キャラクター
クローバーちゃん